

7月どりねぎ栽培による豚糞堆肥施用量の検討

東北農林専門職大学附属農林大学校 野菜・花き経営学科野菜コース 早坂 俐玖

みどり戦略の関連性

地域有機資源の豚糞堆肥を利用したねぎ栽培

課題設定の理由

私の住んでいる山形県最上郡真室川町は、ねぎやニラ、伝承野菜栽培が盛んな地域である。私の祖父母もねぎと稲を栽培している第一兼業農家である。最上地域で栽培されているねぎは、「最上ねぎ」という地域ブランドとなっており、高品質で栽培されている。しかし、年々高騰し続ける化学肥料などにより栽培コストが掛かりすぎるため、コスト削減について検討する。また、現代では環境に配慮した栽培が推進されているため豚糞堆肥を活用した、化学肥料の低減について検討する。

試験方法

- 豚糞 1t 区：豚糞堆肥を 10a 当たり 1t 施用する区。
 （化学肥料 N 成分 13.0kg/10a 対照区比 46.7%減）
 豚糞 2t 区：豚糞堆肥を 10a 当たり 2t 施用する区。
 （化学肥料 N 成分 1.8kg/10a 対照区比 92.6%減）
 牛糞 2t 区（対照区）：牛糞堆肥を 10a 当たり 2t 施用する区。
 （化学肥料 N 成分 24.4kg/10a）

試験結果

- 1 葉鞘径は、区間差はほとんど見られなかった。（表 1）
- 2 軟白長はすべての区において出荷規格の 25cm 以上となった。（表 1）
- 3 商品化収量は、豚糞 2t 区が最も多くなり、次いで豚糞 1t 区となった。（図 3）

表 1 調整後調査

20 株平均

	葉鞘径(mm)	葉鞘長(cm)	軟白長(cm)	調製重(g)	商品化率(%)
豚糞 1t 区	25.2	36.7	28.8	209	65.4
豚糞 2t 区	25.8	34.9	27.3	230	86.2
牛糞 2t 区 (対照区)	24.0	39.2	29.4	187	48.5



図 1 定植の様子（5月2日）



図 2 生育の様子（7月1日）

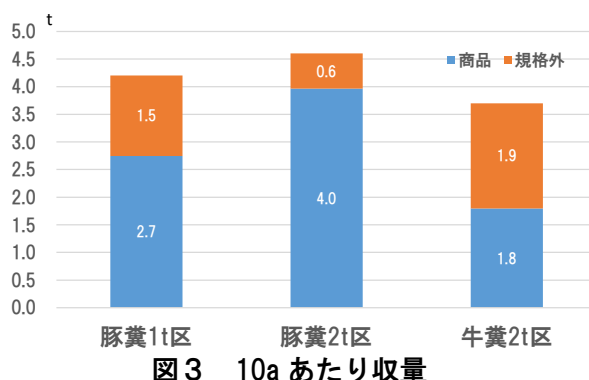


図 3 10a あたり収量

考察及び今後の課題

- ・豚糞 2t 区は、目標の商品化率 85%に達しているため、豚糞堆肥を 2t 施用することで安定した栽培が可能だと考えられた。
- ・豚糞 1t 区と豚糞 2t 区は牛糞 2t 区よりも商品化収量が多かったため、化学肥料の施用量を減らしても慣行区と同等以上の商品化収量が得られたため、牛糞堆肥の代用が可能だと考えられた。減化学肥料栽培により低コストで付加価値の高い販売戦略で経営が可能であると考えられる。